

# 1 沿革

昭和22年4月1日	鳥取県立公民館規程の制定により鳥取県立鳥取図書館内に鳥取県立公民館が設置され、図書部、科学部、集会所がおかれる。科学部は「科学研究館」として運営。
昭和24年7月1日	鳥取県立公民館規程が廃止され、鳥取県立科学館設置条例に基づき「鳥取県立科学館」が設置される。
昭和24年7月23日	仁風閣に移転。物理、電気、化学、地学、生物の5部門からなる指導研究室を設置。
昭和24年12月	初代館長に岸本喜代治就任。
昭和25年1月	鳥取県立科学館開館式を開催。
昭和27年7月1日	昭和27年7月博物館法の施行により、同法に基づく博物館相当施設として文部大臣の指定を受ける。
昭和29年7月1日	登録博物館となる。
昭和29年7月1日	鳥取県立科学博物館規程の制定により「鳥取県立科学博物館」と改称。
昭和30年5月	考古指導研究室設置。
昭和30年7月	教育研究所等の転出により仁風閣を全館使用。
昭和31年7月1日	鳥取県立科学博物館に庶務係及び指導調査係を設置。
昭和36年3月	鳥取県立科学博物館研究報告第1号を発刊。
昭和38年3月31日	理工学部門(物理、電気、化学)の廃止。
昭和38年4月1日	民俗部門の設置により生物、地学、考古、民俗の4部門となる。民俗室新設。
昭和38年9月	資料目録第1号(考古資料)を発刊。
昭和39年9月6日	文化センター建設調査費を計上し、施設構想を検討。
昭和43年5月	「野鳥の声を聞く会」が禰谷一帯で始まる。
昭和43年6月	郷土視覚定点資料の収集始まる。以後5年目ごとに実施。
昭和43年9月10日	文化センター敷地について、鳥取市公設運動場と二の丸公園を充てることで知事と鳥取市長が合意。
昭和44年1月	県教委、県立文化センター(博物館)の建設基本構想発表。
昭和44年4月2日	文化施設の建設促進のため、県に鳥取県立文化施設促進協議会を設置。
昭和44年5月30日	株式会社日建設計に建設構想図の作成を依頼。
昭和44年7月	鳥取県博物館協会設立。会長に鳥取大学徳永職男教授を選任。
昭和45年9月15日	鳥取県立博物館の実施設計完了。
昭和45年10月20日	建設工事着工(建設費総額 11億2904万6千円)。
昭和46年4月1日	鳥取県立科学博物館に美術係を設置。
昭和46年5月	県立博物館準備委員22名委嘱。
昭和47年4月1日	鳥取県立科学博物館を「鳥取県立博物館」と改称、組織も、管理課(庶務係、設備係)、学芸課(学芸係、美術係、史料係)と二課制に拡充。
昭和47年4月1日	西本真一(県立鳥取東高等学校長)が館長に就任。
昭和47年5月31日	建設工事竣工。
昭和47年9月	県立鳥取図書館より池田家史料移管。
昭和47年10月1日	鳥取県立博物館竣工式、開館式挙行。開館記念特別展開幕。
昭和48年	仁風閣を鳥取市に委譲。
昭和49年7月～9月	第1回博物館講座および第1回博物館中学生講座を開催。
昭和50年4月1日	木代彰(県教育長)が館長に就任。
昭和50年8月	第1回博物館小学生講座を開催。
昭和51年8月	親と子の博物館野外教室を開催。
昭和51年12月14日	西尾優(県教育長)が館長事務取扱。
昭和52年4月1日	前田壽男(県教育次長)が館長に就任。
昭和53年10～11月	第1回巡回展「鳥取県の洋画」(日野町、境港市、淀江町)開催。
昭和53年11月	第1回郷土史講座開催。

昭和54年 3月16日	鳥取県美術品取得基金条例公布施行。
昭和55年 5月	鳥取県民俗文化財分布調査実施。
昭和56年 2月	基金により美術品を購入(前田寛治作《花と子供等》)。
昭和56年 4月 1日	山根幸恵(県立鳥取西工業高等学校長)が館長に就任。
昭和56年 7月	「お母さんの自然教室」を開催。
昭和58年 4月 1日	河田晃(県立鳥取西工業高等学校長)が館長に就任。
昭和58年 4月 1日	学芸課の係を再編成し、自然係、美術係、人文係とする。
昭和58年 4月 1日	考古・民俗展示室を歴史・民俗展示室に改編。
昭和60年 4月 1日	松本兵衛(県立鳥取図書館長)が館長に就任。
昭和60年 6月11日	近代美術展示室を開設。
昭和60年11月 3日	皇太子殿下・同妃殿下が、第21回全国身体障害者スポーツ大会行啓の際に当館を御視察。
昭和61年 6月 8日	中国河北省友好訪日団(河北省長ほか5名)来館視察。
昭和62年 4月 1日	長石肇(県教育次長)が館長に就任。
平成 3年 6月 1日	鳥取県立博物館美術資料収集委員会を設置、8月に第1回委員会を開催。
平成 4年 4月 1日	國岡靖夫(県立倉吉東高等学校長)が館長に就任。
平成 5年11月15日	文化課に県立美術館基本構想検討委員会を設置。
平成 6年 6月 8日	鳥取県立博物館改修計画策定委員会を設置、平成8年3月までに計6回の委員会を開催。
平成 8年 3月28日	鳥取県立博物館の改修について教育長へ提言。
平成 9年 4月 1日	西垣幸信(県立鳥取盲学校長)が館長に就任。
平成10年 6月16日	中国河北省博物館友好交流団(李吉樹館長ほか4名)が来館。 鳥取県立博物館において、河北省博物館と「友好交流締結協定書」に調印。
平成10年 8月 7日～11日	第22回全国高等学校総合文化祭(美術・工芸部門)開催。
平成11年 2月 8日	熱源機器改修工事完成(平成10年6月着工)。
平成12年 9月12日	中国河北省博物館友好交流団(李宏傑副館長ほか5名)が来館。
平成13年 4月 1日	渡瀬由章(県立鳥取農業高等学校長)が館長に就任。
平成13年10月 4日	バリアフリー工事着工。
平成14年 4月 1日	機構改革により美術振興課設置(文化課・美術館整備調査室及び学芸課美術係の組織再編)。
平成14年 4月10日	バリアフリー工事完成。 ①玄関アプローチ手すり及び屋内階段の両方に手すり設置 ②喫茶室出入口及び屋内段差をスロープに改修 ③休憩室内手洗い改修(車イス対応) ④身障者用便所を多目的便所に改修(折りたたみシート、オストメイト設置) ⑤視覚障害者誘用床材設置(玄関アプローチ→正面玄関入口→ホール) ⑥玄関先及び駐車場入口の側溝改修 ⑦エレベーター(身障者対応)及び段差解消リフト設置(2台) ⑧車イス用駐車場整備(駐車場の区画整備) ⑨既設スロープ出隅部面取り ⑩園路出入口段差解消(スロープに改修)及び園路(砂利道)を透水性真砂土に改修
平成14年 4月25日	音声誘導設置及びパトランプ設置完成。
平成14年10月13日～27日	第17回国民文化祭・とっとり2002「美術展(日本画・洋画)」開催。
平成14年11月 2日	開館30周年記念事業実施。
平成15年 3月16日	高円宮妃殿下が故高円宮殿下「素顔の一瞬」鳥取展(仁風閣)の際に御来館、御視察。
平成15年 4月 1日	谷口博繁(国民文化祭推進局長)が館長に就任。
平成15年	博物館ホームページを開設、収蔵資料データベースの運用を開始。鳥取藩政資料デジタル化によるCD複写サービスを開始。

平成15年 4月	「催物展」の名称を「企画展」に変更。
平成16年 2月	広報ボランティア(ポスター貼ります隊)の募集を開始。
平成16年 4月 1日	管理課を総務課に改称。
平成16年	資料保管事業において、特定化学物質による資料燻蒸から、職員による日常的な総合的有害性物管理(IPM)への切り替えに向けた取り組みを開始。
平成17年 4月 1日	本庁化となる。併せて、学芸課、美術振興課の係を廃し、担当制となる。
平成17年	刊行物の見直しを行い、年間 1 回発行の『郷土と博物館』を廃刊し、年 2 回発行の『鳥取県立博物館ニュース』を刊行。
平成18年 4月 1日	三田清人(文化観光局長)が館長に就任。
平成18年 4月 1日	山陰海岸学習館及び遠山正瑛資料室が新たに附置される。
平成18年 9月 1日	学芸課に新しく普及担当を新設。
平成19年 4月	「特別展」と「企画展」の区分を廃止し、全て「企画展」に統一。
平成19年 7月	久松山、建物及びお堀をイメージしたロゴ・マークを作成、館内サイン類のリニューアルを実施。
平成19年	ミュージアム・グッズ等の展示販売コーナーを拡充整備。
平成20年 4月	鳥取県美術展覧会開催事業を文化政策課へ移管。
平成20年 4月	美術普及活動を毎週土曜日に開催する「毎週土曜はアートの日!」を開始。
平成20年	博物館ホームページに「学校のための博物館利用ガイド」を新設。
平成21年 4月 1日	森谷邦彦(県立県民文化会館館長)が館長に就任。
平成21年 4月 1日	開館時間延長を始める。
平成21年10月	山陰海岸ジオパーク構想を踏まえた山陰海岸学習館リニューアル整備の着工。
平成22年 4月 1日	運転監視及び設備保全業務の外部委託開始に伴い、設備係を 2 名削減する。
平成22年 4月24日	山陰海岸学習館リニューアルオープン。
平成22年 9月12日	ロシア・アルセーニエフ名称沿海地方博物館と「友好交流及び協力に関する協定」を締結。
平成22年12月10日	韓国江原道国立春川博物館と「友好交流及び協力に関する協定」を締結。
平成23年 7月	博物館カフェがリニューアルオープン。(株式会社グラン・クリュ工房(カフェ・ダール・ミュゼ))
平成23年12月 1日	韓国江原道国立春川博物館と「職員相互派遣に関する合意書」を締結。
平成24年 3月	山陰海岸学習館屋外トイレ棟増築。 山陰海岸学習館ハートフル駐車場の屋根及び玄関までの通路上屋設置。
平成24年 4月 1日	山内有明(県立鳥取工業高等学校長)が館長に就任。
平成25年 1月14日	山陰海岸学習館で 3 D 映像「大地と海の物語」上映開始。
平成25年 2月 2日	開館40周年記念事業実施。
平成25年10月 9日	秋篠宮殿下・同妃殿下が平成25年度全国都市緑化祭の際に山陰海岸学習館に御来館、御視察。
平成26年 1月	山陰海岸学習館屋外倉庫新築。
平成26年 3月 4日	山陰海岸学習館で 3 D 映像「神秘と生命(いのち)の物語」上映開始。
平成26年 3月17日	「山陰海岸学習館の在り方について」の報告書を教育長に提言。
平成26年 4月 1日	大場尚志(東京本部長)が館長に就任。
平成26年 6月	山陰海岸学習館 E V 充電器設置。
平成26年 6月27日	鳥取県立博物館現状・課題検討委員会を設置。
平成26年11月 1日～ 2日	秋篠宮妃殿下、佳子内親王殿下が第14回全国障がい者芸術・文化祭とっとり大会の際に御来館。
平成27年12月	山陰海岸学習館屋上防水他工事完成。
平成27年 1月	県立博物館第 3 展示室改修工事完成。
平成27年 2月	県立博物館 1 階休憩コーナー造作改修工事、1 階喫茶室ガラス取替え工事完成。
平成27年 3月	鳥取県立博物館劣化診断・改修計画策定業務完了。

平成27年 3月26日	「山陰海岸学習館の機能充実に向けた対策基本計画」策定。
平成27年 4月 7日	「鳥取県立博物館現状・課題検討結果報告書」を教育長に提言。
平成27年 6月26日	博物館等地方独立行政法人制度研究会を設置。
平成27年 7月 1日	総務課に「美術館整備推進担当」を設置。
平成27年 7月17日	鳥取県美術館整備基本構想検討委員会を設置。
平成28年 2月 2日	山陰海岸学習館でダイオウイカ標本の展示公開。
平成28年 2月17日	鳥取県立美術館整備基本構想における建設候補地について、鳥取県立美術館候補地評価等専門委員による現地調査及び条件適合性の評価を開始。
平成28年 3月29日	「山陰海岸学習館の展示更新等の計画」策定。
平成28年 4月 1日	山陰海岸学習館を生活環境部に移管。山陰海岸ジオパーク海と大地の自然館として、新生岩美町立渚交流館と一体的な運営を開始。
平成28年 4月 1日	行政財産使用許可期間満了によるカフェ事業者公募により、株式会社グラン・クリュ食工房(カフェ・ダール・ミュゼ)が引き続き選定され、営業開始。
平成28年10月	美術館整備に関する県民意識調査を実施。
平成28年12月	県立博物館外壁等改修工事完成。
平成29年 1月	美術館の建設場所に関する県民意識調査を実施。
平成29年 3月 3日	県教育委員会において鳥取県立美術館整備基本構想を決定。
平成29年 3月	県議会において、建設場所(倉吉市営ラグビー場)を含む基本構想を基にした基本計画策定及びPFI手法導入可能性調査等の実施経費予算が議決。
平成29年 4月 1日	田中规靖(県教育委員会次長)が館長に就任。
平成29年 4月 1日	総務課美術館整備推進担当を総務課から切り離し、「美術館整備準備室」を設置。
平成29年 8月	鳥取県美術館整備基本計画策定アドバイザー委員会を設置。
平成30年 3月	鳥取県立美術館整備基本計画(中間まとめ)を策定。
平成30年 6月	鳥取県立博物館改修整備基本構想(中間まとめ)を策定。
平成30年 7月	県教育委員会において鳥取県立美術館整備基本計画を策定。
平成30年 9月14日	鳥取県立博物館開館50周年記念事業検討プロジェクトチーム設置。
平成30年11月20日	鳥取県教育委員会公募型プロポーザル方式受注者選定等審査会(美術館整備運営事業)を設置。
平成30年 3月19日	鳥取県立美術館(仮称)整備運営事業の実施方針の策定、公表。
令和元年 7月 4日	鳥取県立美術館の設置等に関する条例の制定。
令和元年 7月17日	鳥取県立美術館整備運営事業の特定事業の選定、公表。
令和 2年 3月	鳥取県立美術館整備運営事業者との事業契約の締結及び指定管理者の指定。
令和 2年 3月31日	美術館整備準備室を廃止。
令和 2年 4月 1日	(倉吉未来中心内に美術館整備局美術館整備課を新設)
令和 3年 4月 1日	尾崎信一郎(副館長)が館長に就任。
令和 3年 4月 1日	行政財産使用許可期間満了によるカフェ事業者公募により、株式会社グラン・クリュ食工房(カフェ・ダール・ミュゼ)が引き続き選定され、営業開始。
令和 3年 4月 1日	増加する美術資料の保管に対応するため1階美術展示室を休室し、臨時収蔵庫として使用開始。
令和 3年12月26日	文化財保護法第53条の規定に基づく公開承認施設として承認。
令和 4年 2月	外灯取替工事完成。
令和 4年 4月 1日	漆原芳彦(美術館整備局次長)が館長に就任。
令和 4年 4月～	開館50周年記念事業実施。